

よえもん

2016年8月

第40号

今月のことば



シリーズ
よえもん

そばやのかんばん



「論語」子路第十三

書・瀧田瑞穂さん

君子は和して
小人は同じて
和せず
同じせず

ある日、となり村のそばやの主人が「先生の
じょうずな字でうちのかんばんを書いてください
ませんか。」とたのみました。すると藤樹先生は
こつお引きうけてくれました。

後日、主人が先生の所にいくと、先生は、みづな
字で書かれたかんばんをかかえて出てきました。主人は
礼を言い、喜んで持って帰りました。

それからしばらくして、加賀のどのさまがそのそばや
で休みました。その時、ふとそばやのかんばんを見て、
「これは、りっぱなかんばんだ。たいへんみづな字に書いて
ある。どうか、このかんばんをゆずってほしいか。」と
たのみました。主人は「もう一度、先生に書いてもらえ
ばいいから。」と思って、ゆずってあげました。どのさまは
たいそう喜んで、主人にたくさんのお金をねにわたしました。
主人は喜んで、さっそく先生にそのことを話しました。お
ると先生は、はんびつを出して、ふたをあけました。その中には
かんばんを書くために練習した下書きが、いっぱいあって
いました。それを見た主人は、先生の真心のこもったかん
ばんを、かんたんに先生の話しも得意で手離してしま
ったことをたいへんおどろき、先生におわびをしました。

この孔子のことばの中では、「和」は
心なごやかでうちとけて友だちになる
こと、「同」は、自分の意見を持たない
で、ただわけもなく他人の言うことに
いいハイと賛成すると、言意味で使
っています。

そこで、「論語」は「君子は、
主体性を持ちつつ調和するがわけ
もなく他人の説に同意することはない。
小人は、わけもなく他人の説に同意
するが、調和はしない」と訳す
ことができます。

記念館

だより

8月2日、3日、4日、5日、10日、11日の6日間子佐でらこや
小学校を開校させていただいております。市内の小学3年生
から6年生の37人の子どもたちが論語の素読と毛筆習字を
中心に、科学実験やものづくりなどに熱心に取り組んでく
れています。毎日、子どもたちの元気な「おはようございます。」の
あいさつからはじめ、いきいきと活気ある時間を過ごさせていた
だいております。これもひとえに保護者の皆様のご理解、ご協
力のおかげだと感謝しております。ありがとうございます。

近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL/FAX (0740)-32-0330

